

福島の子ども受け入れ

て外で遊ばせたかった」と話していた。

被爆地・広島で未来考える

被爆地・広島で福島の子どもの絵の制作に加わり、絵を完成させた。岡本代表は「広島でも多くを語れず心に闇を抱えたまま、福島の人たちに闇を作らなうと「海と風と光の会」（岡本法治代表）は、8月4日から6日間、放たれた子どもが鼻血を出していきたくないという不安を語れる場射能の被害で苦しむ福島市や福島県飯館村の12人（子ども6人）を広島市に招いた。射能の影響が心配で夏でも長袖にマスクをして外出。ほとんど家の中で生活しており、夏休みだけでも安心して原爆投下の前日となる5日は原爆速夜法要に参拝、原爆ドーム東隣の西向寺からの提灯行列に加わった。6日には広島平和記念公園での式典に参列。その後、飯館村へ千羽鶴を贈った同市中区の基町小学校の児童と交流。画家の黒田征太郎さんと全校生徒で描く「い

て外出。ほとんど家の中で生活しており、夏休みだけでも安心して原爆投下の前日となる5日は原爆速夜法要に参拝、原爆ドーム東隣の西向寺からの提灯行列に加わった。6日には広島平和記念公園での式典に参列。その後、飯館村へ千羽鶴を贈った同市中区の基町小学校の児童と交流。画家の黒田征太郎さんと全校生徒で描く「い